

参観者も保育者も 一目でわかる保育指導案

～系列保育園の実践を通して～

本 村 弥 寿 子

A understandable childcare plan for visitors and nursery teachers

Yasuko MOTOMURA

キーワード：保育指導案 リズム・運動遊び 忍者ごっこ

1 はじめに

かつて長崎市立であった保育所のうち7園が、現在民間移譲されている。その7つの保育園が、自らの保育力を高めるために、年に2回ほど公開保育を参観し合う研修会を行っている。

本年度は、本学の系列保育園が公開保育の担当であった。そこで、8月の公開保育に向けて、年度初めから本学の幼児教育学科の教員3名がかかわり、公開保育当日の保育内容や研修会の運営について指導助言を行ってきた。特に、指導案作成に関しては保育園側が大きな不安を抱いていたため、丁寧に検討を重ねてきた。

本論では、公開保育に向けて本学教員が行った指導助言の内容について報告する。

2 指導助言の実際

2-1 第1回目

日 時：4月16日(月)

場 所：本学 浦川研究室

参加者：(保育園) 園長、主任

(本学) 浦川、下釜、本村

まず、保育園側から、今年度は「リズム・運動遊び」に力を入れたいこと、そして、「リズム・運動遊び」の歳児別のプログラムを作成し、毎朝実施したいということが伝えられた。さらに、公開保育当日は、広い園庭を活用した遊びを展開したい旨も話された。

そこで、以下の助言を行った。

- ① 保育所保育指針の保育内容「健康」の領域を主に意識して保育を考えること。
- ② 園児の実態を洗い出し、育てたい子どもの姿を明確にすること。
- ③ 保育の計画や研究の構想を考えること。

保育園では、保育所保育指針の保育の内容を全て網羅する努力をして保育にあたっている。そのため、①の助言は、園長や主任には納得のできないものであったようだ。そこで、他園の保育士に保育園の取り組みを伝えるときに、焦点を絞って話すほうが伝わりやすいことや、保育のねらいが焦点化しやすいことを強調した。②や③に関しては、民間移譲されたときに作り直した園の目標や保育方針などを踏まえて考えたいということであった。

2-2 第2回目

日 時：5月21日(月) 14:00～15:00

場 所：保育園

参加者：(保育園) 園長、主任、保育士8名

(本学) 本村

【公開保育当日の遊びについて】

公開保育実施日が8月であることから、夏ならではの遊びで体を動かすものとして「水遊び」が挙げられた。しかし、天候に左右される遊びであるため、雨天になってもあわてなくてもいいよう

に、「ごっこ遊び」を行いたいという意見が出た。特に3・4・5歳児と一緒に「忍者ごっこ」を展開し、約10人のグループで様々な運動遊びを「修行」として行いたいという考えであった。

これは、下釜から事前に借りた図書を参考にし、保育園側が考えたものである。子どもたちは興味をもって取り組むであろうと予想した。しかし、真夏の室内で長時間体を動かして遊ぶことは不可能であり、子どもの日頃の夏の生活からかけ離れていると感じられた。そこで、「忍者ごっこ」の中に、子どもたちが夏の遊びとして楽しんでいる「水遊び」を、「忍者の修行」として取り入れる方向で考えるよう助言した（公開保育当日は「水飛ばしの術」として水鉄砲遊びが展開された）。

一方、0・1・2歳児は、各年齢で発達にあった運動遊びを取り入れながら夏の遊びを楽しめるよう、それぞれの担任が内容を考えることとなった。

【指導案の形式について】

保育園が提案した指導案の形式は、一日の流れを時系列で示しつつ、公開保育の時間の部分を「本時案」として詳しく別紙に書き起こしたものであった。このような形式では指導案が長くなり、参観者にとって見辛いのではないかと懸念する声が聞かれ、「本時案」の部分だけの指導案としてはどうかという意見が出た。

これに対し、保育園は園児が一日を通して生活する場であり、その流れはとても大切なものであること、その流れにどのように「本時」が位置付けられているかを指導案で示すことはとても重要なことであると伝えた。

こうして、一日の流れを時系列に沿って示し、特に10時頃から11時30分までの参観時間を「本時案」として別紙に詳しく示すことを共通理解した。さらに、0・1・2歳児は各年齢で、3・4・5歳児はまとめて指導案に表わすことも確認した。

2-3 第3回目

日 時：6月21日(木) 14:00~16:30

場 所：本学 本村研究室

参加者：(保育園) 園長、主任
(本学) 本村

【保育の内容と指導案の形式について】

前回の検討会で共通理解したことや指導を受けたことをもとに各年齢の担任が指導案を作成した。それを年齢ごとに検討した。

図1 指導案の形式

一時系列に沿った指導案の型一

保育指導案(○組△歳児)		
平成24年8月3日(金)		
男児○名 女児○名 計○名		
指導者 ○○○○ □□□□		
<ねらい>		
<内容>		
時刻	予想される子どもの活動	☆環境構成 ★保育者の援助・配慮
7:30	○順次登園する。	本時案参照
9:50	○好きな遊びをする。	
16:00	○順次降園する。	

一「本時案」部分一

本時案		
子どもの姿		
◎ねらい ・内容		
時刻	予想される子どもの活動	☆環境構成 ★保育者の援助・配慮
9:55	○お集まりをする。	
10:55	○後片付けをする。	

公開保育当日も、10時ごろに行うよう指導案の中に示されていた。各年齢の興味・関心、また発達に応じた遊びを考え、日頃から楽しんでいるものを3曲ほど考えていた。

これに対しては、3曲は多いのではないかということ、さらに、3・4・5歳児は「忍者ごっこ」につながるリズム遊びを取り入れたほうが良いのではないかという助言を、著者が下釜より受けていたので、この場で伝えた。

2-5 第5回目

日時：7月27日(金) 16:30~19:00

場所：本学 本村研究室

参加者：(保育園) 園長、主任

(本学) 本村

最後の指導案検討会であるため、これまでに書き直された部分を中心に見直しを行った。誤字脱字の確認と共に、担任の保育に対する思いが伝わる文章になっているかという視点からも見直しを進めた。

また、資料集の内容や当日の流れ、協議会の流れと内容についても確認を綿密に行った。

保育園側から数点の質問が出されたので、それに対しての助言も行った。助言については以下のとおりである。

- ①保育指導案と資料集は別にして綴じるほうが良い。
- ②協議会の最後に、園長のあいさつを入れること。
- ③協議会の時間配分を考えておくこと。

3 おわりに

8月3日当日は、本学園の理事長をはじめ、6つの保育園より16名の園長や主任保育士、本学幼児教育学科より3名が参加しての公開保育となった。天気にも恵まれ、子どもたちは友達とリズム・運動遊びや水遊びに元気に取り組み、楽しんでいる姿が見られた。

協議会では、参観者から、保育園の子どもたちが素直にのびのびと育っている姿や、職員が素晴らしいチームワークで保育にあたっていることが話題に挙げられた。さらに保育指導案が見やすく、

これからの参考になったという意見も出された。

今回、初めて保育園の指導案作りにかかわったが、直接担任保育士と話をする機会は一度しか持たず、互いの思いが十分に伝わり合っているか心配することもあった。しかし、園長と主任保育士が見事に仲介し、着実に指導案作成を進めていった。保育園職員の関係が、組織として素晴らしいものであると感じられた。同時に、毎日の保育で忙しい中でも指導案を書きあげた担任保育士たちの熱心さにも感心した。

保育園の実態として、保育指導案を書く機会はほとんどない。しかし、保育士は、子どもの幸せを思い、よりよい保育を提供したいと日々努力している。保育に対しての思いはあふれている。この思いは是非周囲の者に伝えてほしい。そのためにも保育指導案を書く機会を増やし、保育者同士が保育観を伝え合い、互いの力を高め合ってもらいたいと考える。

4 課題

保育園は、一日中子どもがいるため、職員が全員集まって会議を開くということではできない状態である。そのため、指導案を書いたとしても検討会を開くことができないようであった。

しかし、保育所保育指針には、職員の資質向上のために研修等に努めなければならないと明記されている。忙しい中でも時間をやりくりしながら、職員の保育の専門性を高める研修会を定期的に設けていくことが、これからの課題であると考えている。

今回の指導案検討会では、各担任の作成した指導案を、主に園長や主任保育士、そして著者が添削を行った。このやり方に加え、子どもの午睡の時間を利用するなどして複数の担任で検討会を開いたり、担任同士がそれぞれの空き時間に目を通したりすることが必要であると思われる。

引用・参考文献

- ・厚生労働省 保育所保育指針 2008年度改定版
- ・開 仁志編著 これで安心! 保育指導案の書き方2008年 北大路書房
- ・岩井邦夫著 みんなで楽しい忍者ごっこ 1994年 明治図書